

上高地の旅

塚田 實

八月末久し振りに上高地を訪れた。さわんど第三駐車場までドライブし、隣接するバスターミナルからタクシーに乗り換え、上高地に向かった。釜トンネルを抜けて上高地に入ると土砂降りで景色は何も見えず、上高地バスターミナルに着いても雨は降り止まない。「ここから河童橋傍の五千尺ホテルまで歩いて五分はかかるな」とつぶやくと、運転手さんが「お客さん、丁度三時を回りました。三時を回れば事務所の許可を貰うと、料金は別料金ですが河童橋まで入れます」。お陰で殆ど濡れることなくチエックインできた。

夕方には晴れてきて、夜中の二時に起きてベランダに出ると、空には満天の星が輝いていた。

翌日は快晴で先ず大正池に出かけた。焼岳が池に鏡のごとく映っている。振り返って穂高を見ると、前穂から奥穂、西穂までやはり池に姿を映している。二十一歳のとき槍ヶ岳から北穂、奥穂、前穂を縦走したときが懐かしく思い出される。その後田代橋からウエストン碑經由河童橋に戻った。

午後は明神池まで往復した。近くで見る明神岳は崖が崩れて荒々しく、手前の静かな明神池の佇まいとの対比が印象的だった。穂高神社奥宮にお参りし、池の畔にある上條嘉門次ゆかりの小屋で一休みする。

散策の途中では色々な花が疲れを癒やしてくれる。紫色で釣り鐘型の美しい花に出会った。グーグルレンズで確かめると、毒性を持つトリカブトだった。

結局この日は計十五キロ歩いた。今回初めて二本のトレッキングポールを使った。山道のアップダウンの激しい中で、特に下りでは体重をポールにかけられるので、膝への負担はとても軽く感じられた。

ホテルに戻って、ベランダのテーブルで穂高連峰を眺めながら、クラフトビールや地酒をたしなむ。夕方になると山の天気は刻々と変わり、何とも言えない至福の一時だ。「家に帰ったら、絵を描いてみよう」

帰りの日も快晴で、梓川の川面からあがる朝靄と山にかかる雲の移ろいを楽しんで、上高地に別れを告げた。